

2022年6月30日

関西電力株式会社 御中

(仮称) 川崎ウインドファーム事業 計画段階環境配慮書に関する意見書

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

公益財団法人 日本自然保護協会

理事長 亀山 章

日本自然保護協会は、自然環境と生物多様性の保全の観点から、宮城県川崎町で計画されている(仮称)川崎ウインドファーム事業(事業者:関西電力株式会社、最大総出力:96,600kW、基数:最大23基)の計画段階環境配慮書に関して意見を述べる。

本事業は下記のような懸念があり、生物多様性の喪失などの自然環境面での多大な影響が予測されることから、事業計画を中止するか、事業実施想定区域の抜本的な見直しが必要である。

1. 種の保存法の政令指定種イヌワシとクマタカの個体群への影響に対する懸念

事業実施想定範囲では、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法)において国内希少野生動植物種に指定されているイヌワシとクマタカの生息が確認されている。イヌワシは国の天然記念物にも指定されており、現在、生息数は400~500羽と推定されているが、年々減少しつつあると考えられている。本事業の遂行は、生息が確認されている同地域のイヌワシの生息環境を脅かし、生息個体を発電施設への衝突事故の可能性にさらすことになり、同地域のイヌワシ個体群の絶滅に繋がるのが強く懸念される。環境省は2021年8月19日に「イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標」を発表し、地域ブロックごとのつがい数・繁殖成功率の目標値を設定した。本事業は今後求められるイヌワシの保全の取り組みに逆行するものである。

2. 鳥類のバードストライクへの懸念

当該地域はノスリやサシバ、ハチクマなどの渡り鳥の渡りの経路となっている。また事業実施想定範囲の、(公財)日本野鳥の会が定めた重要野鳥生息地(IBA)の蔵王・船形に該当し、さらに、環境省作成の陸域版センシティブティマップにおける注意喚起メッシュ図では、風車の建設には注意を要するエリア(A3)が含まれており、野鳥の生息への影響が強く懸念される。風車によるバードストライクなどによって、生存に影響が懸念されることから、本事業実施想定区域からIBAおよび陸域版センシティブティマップのA3のエリアは少なくとも除外すべきである。

3. 生物多様性の喪失が懸念される

本事業実施想定区域の大半は、一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパンにより生物多様性の鍵になる地域 (KBA) として指定されている蔵王・船形が含まれている。2030 年までに世界の陸域・海域の少なくとも 30%を保全・保護することを目指す生物多様性に関する新たな世界目標「30by30 (サーティー・バイ・サーティー)」が推進されている中で、計画段階とはいえ、このような生物多様性保全上重要な場所での大規模な開発行為はおこなうべきではない。

4. 重要な植物群落、植物種への影響への懸念

特定植物群落「蔵王山の植物群落」が事業実施想定区域の高標高域の半分近い面積を占めており、植生自然度9のチシマザサーブナ群団となっている。また、対象事業実施想定範囲の半分以上の範囲が保安林に指定されている。本事業実施想定区域には既設の林道は存在しないため、風力発電機を設置するためには、土地の改変および立木の伐採を伴う工事用道路の新設を大規模に行う必要がある。このような自然度が高く重要な森林群落が広範囲に伐採されることは、自然環境保全上、行うべきではない。

5. 土砂災害の危険性増大の危惧

事業実施想定範囲の低標高地域から流下する溪流のほとんどが土石流危険溪流に指定されており、特に立野川左岸には土砂災害特別警戒区域が複数分布している。土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命に著しい危害が生ずる恐れがあり、一定の開発行為の制限や居室を有する建築物の構造が規制されている。さらには事業実施想定範囲には多数の地すべり地形がみられる。上流部の立石山の尾根上で大規模な土地改変や伐採行為を行うことは、下流部の各溪流での土砂災害リスクを高めることが懸念される。

以上